

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	南部メコン地域の中核拠点病院にて、重症患者への適切な治療、および医療従事者への効果的な教育が継続的に提供される。
(2) 事業の必要性 (背景)	(ア) ベトナム社会主義共和国では、未だ医療教育・技術水準が低く、特に貧富の差が医療享受の差となっており、都市部から遠く離れた僻地になるほど、医療体制の不備や患者側の経済的な理由で十分な医療を受けられないまま放置されることが多い。乳児の死亡率は日本で1人/1000人、ベトナムでは、12人/1000人と日本の10倍以上であり、重症患者に対する医療体制は十分とは言えない。 対象地域となるベトナム南部メコンデルタ地帯にあるベンチェ省は、ベンチェ市と8つの郡、人口約140万人の省である。ベトナムの最大都市であるホーチミン市の南西約90kmの海岸に位置し、省内はメコン川の支流がクモの巣のように流れ込んでいるため、本土と分断され、交通の便が悪く、さらに水害や塩害も多い。 (イ) 政府開発援助（ODA）における対ベトナム社会主義共和国別援助方針において、援助の重点分野として「脆弱性への対応」があり、保健医療・社会保障・社会的弱者支援などにおける体制整備や農村・地方開発を支援するとされている。グエンデンチュウ病院は、南部メコン地域に位置している中核拠点病院の一つである。この病院の機能が同地域の救命救急を大きく左右するが、十分な整備がされていなかった。 (ウ) こうした状況下の中、当団体は、同省のグエンデンチュウ病院を1993年から支援してきた。支援当初は老朽化した手術室のみしかなく、全身麻酔での手術もままならない状況であった。しかし、当団体が中古医療物品の麻酔器や心電図モニター、無影灯など、数々の医療機材の援助を行うことで、手術が行える環境を整えてきた。また、当団体では、1995年に外務省国際開発協力関係民間公益団体補助金を得て、手術棟の建設に着手し、1996年4月に手術室4つ、集中治療用ベッド18床分を有する手術棟を建設した。手術環境の向上および継続した医療援助活動により、手術件数は、格段に増加した。手術棟の建設後、グエンデンチュウ病院は、ベトナム南部メコンデルタの中核拠点病院の一つとして重症患者、救急患者を受け入れる拠点として機能が向上されたが、最近では、ベンチェ省より南部との間の交通整備がなされたことにより、南部の約7000名の重症患者、救急患者、難症例の患者が、搬送されるようになった。患者数の増加に伴い、やむなく当初は中央機材室であった部屋を手術室へ変更し、1部屋増加し、24時間稼働させて年間約11,000名の手術を行っている。しかし、それでも、患者数は増加の一途をたどっており、本来良い方法とは言えないが、無理をおして当団体の贈与した建物の間仕切りを狭くして手術室を増してきた。それも限界となっている。手術室不足によって、救うことができない患者も増加傾向にあり、緊急に手術室の増設が必要である。また、現地の医師、看護師は、次の世代に伝えるという教育体制が確立されていないため、若い医師、看護師の知識、技術は不十分である。同病院は現在では南部メコンデルタの中核拠点病院の一つとして機能しているが、今後、更に研修教育病院として整備し、傘下の郡、町、村の病院や診療所から医師、看護師、産婆等と呼び寄せ、同病院に研修・教育機能を持たせることにより、南部メコンデルタの医師の知識の向上および、技術供与を行っていくことでより多くの重症患者、救急患者、難症例の患者を助けることができると考える。グエンデンチュウ病院が地域の中核拠点病院として機能するのみでなく教育病院として機能することは、南部メコンデルタの小規模な郡病院

	での患者の治療の質の向上を援助することになり、地域の中核病院すら通院困難な患者の救済にも役立つものである。 (エ) 当団体が支援対象にしているグエンデンチュウ病院は、約 140 万人の人口に対する中核病院として手術室が 6 つという極めて手術室が少ない現状がある。そのため、受け入れるのは重症患者のみであり、本来手術が必要であるにもかかわらず、手術が受けられずに待機している患者、救命できない患者も多い。そこで、今回ハード面で手術室を増築することで、その後、現地の自己資金で当団体が設計した手術室を独自に整備していくことにより、手術待機患者を減少させる事が出来ると考える。 (オ) 今回の費用で当面救命に必須な集中治療室を中心に増設するとともに手術室を 1 室増設する。第 2 ステージとして、残りの手術室 7 室、集中治療室 1 室の整備に関しては、現地病院の自助努力として、将来手術室を整備していく体制を確立するため、MOU を取り交わす。
(3) 事業内容	本事業では以下の活動を実施する。 (ア) <u>グエンデンチュウ病院の手術棟拡張</u> グエンデンチュウ病院が、臨床面および教育面の双方において、指導的役割を担い続けることができるよう、現在 1 階 6 室の手術室および回復室のみである手術棟について 2 階部分を拡張する。 ① <u>新手術室の設置</u> 当面緊急用として床面積 33.3 平米の手術室 1 部屋の増設をする。 ② <u>新集中治療室の設置</u> 新たに床面積 66.55 平米の重症患者の集中治療用の 8 ベッドを新設する。グエンデンチュウ病院の病室は、手術棟から離れており、空調施設もなく電気も暗い。手術棟内に重症患者対象の空調設備を整えた集中治療室を設置することで、急変時の対応を可能とする。 ③ <u>エレベーターおよび階段の設置</u> ストレッチャー等ベッドを載せることが可能な 39.3 平米のエレベーターならびに医療従事者および患者用の階段の設置を行い、重症患者の搬送ができるようにする。 ④ <u>その他（更衣室、トイレの設置）</u> 手術棟拡張を行うにあたり、更衣室およびトイレを新設し、重症患者の家族や医療従事者が使用できるようにする。 (イ) <u>技術・教育研修の実施</u> ① <u>日本人専門家を派遣（約 2 週間）</u> 手術棟の増築と並行して、グエンデンチュウ病院で日本人医師、看護師から現地の麻酔科医、救命医、小児科医、口腔外科医、看護師の養成を行う。本案件開始後から約 10 ヶ月後に日本人を現地に派遣し、グエンデンチュウ病院にて重症患者に関する治療を通じ、現地医師、看護師約 20 名に技術教育を行う。 なお、専門家派遣のみでは不十分であるので、今年度既に旭川医科大学、名古屋大学医学部、愛知学院大学にベトナム人医師を受け入れ、 ① ICU と救急救命研修、② 分娩・帝王切開の安全性向上のための研修、③ 手術器具の消毒、保管等に関する研修を行った。また、平成 27 年 4 月より 2 月まで本研修システムの現地での中心人物として育成することを目的に研修する予定で、小児医療の研修のための小児科医の日本への受け入れも計画しており、これらの研修は自己資金で実施する。 ② <u>グエンデンチュウ病院から傘下病院への医療教育研修（4 回/年）</u> グエンデンチュウ病院で教育を受けた医師や看護師達が、傘下の病院、町、村の医師、医療スタッフに対して医療技術を伝承していき、地元でできる医療を向上させる体制を作る。約 3 ヶ月毎にグエンデン

	チュー病院にて、郡病院から医師、看護師約 20 名を招聘し、症例検討、カンファレンスを行う。 これまでの当団体の援助で、2007 年からグエンデンチュー病院に設立されている先天異常モニタリングセンターを活用している。今後、グエンデンチュー病院における全疾患の正確な数字の把握を行い、ベンチェ省における疾患モニタリング活動の成果を現地で確認し、診察、手術の現状を評価する。医療技術移転のほかに、救命医、小児科医、麻酔科医、産婦人科医等に①救命に必要な知識と技術②医療事故防止のための知識と技術システム③安心・安全の医療のための患者のケアの倫理も含めた対応・目的について理解度を定期的に評価して、救命のみならず手術後のリハビリも含めた技術移転を行う。
(4) 持続発展性	(ア) 当団体は、実施するグエンデンチュー病院手術棟拡張支援事業の実施において、当初からベトナム社会主義共和国厚生省およびグエンデンチュー病院による自立的な運営がなされることを意図しており、医薬品、消耗品の調達、施設の補修、器材の修理など、維持・管理については、本案件開始後、病院側が責任を持つ旨を MOU (覚書) として書面で交わすこととする。 (イ) ベンチェ省唯一の総合病院として、グエンデンチュー病院があり、この下に 8 つの郡病院がある。グエンデンチュー病院は上級病院であり、病院間連絡はスムーズに行うことができる。本案件開始後から、郡病院の医師にも、手術に立ち会う、介助に入るなど、グエンデンチュー病院長から各郡病院に働きかけを行い、グエンデンチュー病院での研修を開始する。医師同士がコミュニケーションを取りやすい状況を作ることができ、協力関係を強化することができる。したがって、南部メコン地域の教育研修病院としての機能確立する。そして、本案件終了後には、郡病院や地域の医療センターから医師、看護師等を定期的に派遣し、グエンデンチュー病院にて救命研修や、医療安全研修等を行っていくことによりグエンデンチュー病院と郡病院とのネットワーク構築ができる。この医療研修システムの構築は、ベトナム全土に広めていくモデルとなるものとする。また、このタイムスケジュールを本案件開始後、MOU で確認する。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	本事業は、グエンデンチュー病院の臨床機能および教育機能を向上させることで当該事業目標の達成に寄与する。 本事業の成果としては、増設した手術室および集中治療室にて重症患者に対する適切な治療が継続的に提供されることおよび研修が効率的にかつ充実した内容で実施されることが期待されている。この成果目標を測る指標は次のとおり。 (1) 手術室および集中治療室の増設に伴い、事業実施前約 11000 件/年行っていた待機患者、重症患者の手術および集中治療をさらに 2200 件/年以上増加させ、事業実施後 13200 件/年以上行うことができるようになる。 (2) 事業実施前、医師（外科医、小児科医、麻酔科医）20 名が配備された手術室および集中治療室において、事業実施後、下記に示す裨益者がいると考える。 直接裨益者：病院外科、麻酔科、小児科医師ならびに看護師約 40 名、研修医約 20 名、地方病院の医師約 30 名、地方病院の看護師約 20 名 間接裨益者：同病院手術患者約 13200 名および研修を受ける郡病院医師が勤務する郡病院手術患者約 3000 名